

# フェアトレードサッカーボール ASPIRO

www.aspiro.jp

ASPIROは、国際協力NGO、わかちあいプロジェクトの新しいプロジェクトで食品以外の品物を扱うプロジェクトブランドです。ASPIROとはラテン語で、何かを得ようとして努力する、希望する、という意味です。世界で恵まれなく、困難な環境のなかでも懸命に努力している若者たちの支えになることを願ってこの名前をつけました。利益（売り上げの1割）をそのような青年たちを励ますために使っていきたいと計画しています。

発売  
開始



フェアトレード・サッカーボールは、1個につき75円から175円の奨励金が、通常の支払いとは別に支払われ、子供の教育や労働者の福祉に使われ、地域の発展に貢献しています。



NHK、週間子どもニュースでフェアトレード・サッカーボールが紹介される



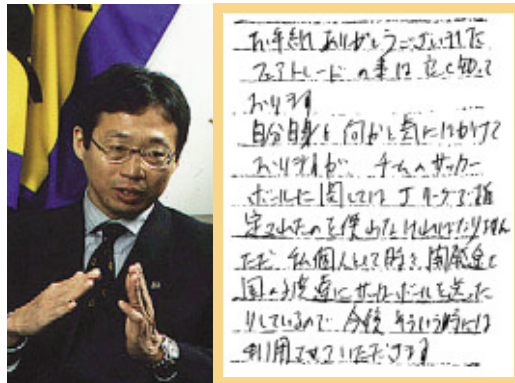
フェアトレードラベルは途上国の生産者が自立し、発展することを保証します



右・ダミアノ・トンマーゾ選手  
ASローマ所属、  
イタリア代表



ボールはすべて手縫い  
(パキスタン)



横浜マリノス岡田武史監督からいただいたコメント

## 日本のサッカーファンの皆さんへ

私は、数年前から、イタリアでフェアトレードの普及に協力しています。サッカーボールはフェアトレード製品の一つです。私が好きなサッカーのことであり、そのボールを通してフェアトレードの普及に貢献したいと強く思っています。

商売のもう一つのやり方、つまり、途上国の労働者に正当な報酬を与えるフェアトレードを私たち大人だけでなく、自分の子供たちも知って欲しいと思います。

途上国の労働者を低賃金の困難な状況に追いやりながら、生産費用を押さえることで自分の利益を上げようとして、一人一人の社会的権利も省みないような、悪徳のからくりを受け入れることはできません。

今私達は、これらの仲介業者から、業務上の倫理を要求することができます。フェアトレードを広め、労働者をきちんと満足させる製品の販売を推進し、すべての労働者の権利をさらに尊重する未来へ投資することは、北半球（先進国）と南半球（途上国）の間の格差をよりいっそうなくしていくためにとっても真剣で、納得できるやり方だということです。

日本でのフェアトレードの推進者として、私のことを考えて下さって、ありがとうございます。

2002年でのワールドカップでは、日本でとてもいい滞在させて頂きました。いつか私の家族も、日本に連れて来られたらと思います。



心よりのご挨拶を  
ダミアノ・トンマーゾ

*fair play with fair balls!*



**NO.1** プロフェッショナルレベル(同じメーカーの同質のボールは、FIFAの認証を受けデンマーク、スイスなどのプロチームで使用されています) (5号ボール) 5000円



**NO.4** 試合用レベル(同じメーカーの同質のボールは、JFAの認証を受けています) (5号ボール) 3500円



**NO.2** 練習用レベル (5号と4号ボール) 2500円



**NO.5** 練習用、おみやげ用 伝統的な和風模様です (5号ボール) 2500円



**NO.3** 試合用レベル(同じメーカーの同質のボールは、JFAの認証を受けています) (5号ボール) 3500円

\* 小学生は4号ボールを普通使います。  
\* ASPIROのサッカーボールにFIFA、JFA認定マークが付いていないものは、そのためにかかる多額の費用を支払う余裕がないためです。





# フェアトレードサッカーボールの由来



現在、イタリア、イギリス、オーストリア、スウェーデン、日本、ドイツ(ワールドカップにあわせて発売開始)で発売されているサッカーボールにフェアトレードマークをつける考えは、何と私たち、わかちあいプロジェクトの活動のなかから生まれました。

1993年からケニアのカクマ難民キャンプを支援するなかで、こどもたちがサッカーボールもなく布でボールを



サッカーボールもなく布でボールをつくって遊んでいるケニアのカクマ難民キャンプのこども達

つくって遊んでいることを知りました。

1995年、サッカーボール、300個をパキスタンのシアルコットの会社から購入するため代表の松木が現地を訪問するなかでアイデアが生まれました。

認証マーク(FLO)をつけることに合意するまで時間がかかり、ようやく2003年に合意し、2004年に発売をはじめます。

## フェアトレード・ラベルの保証するもの

### 1. 生産者へのフェアトレード価格を保証します

サッカーボール1個につき輸入業者買い取り価格(FOB)の15%の奨励金の支払い  
\*この奨励金により学校建設、診療所の運営などのような様々なプロジェクトをおこないます

### 2. 生産者の社会的な発展を保証します

●フェアトレードで得た奨励金の使途が労働者と会社経営者との協議で民主的に決定され、社会発展の事業(学校建設など)のために使われる

### 3. 生産者の経済的な発展を保証します

●生産物が輸出品質基準を満たしている  
●フェアトレードによる利益の一部が経済発展の活動(設備投資など)に運用される

### 4. 生産者の労働環境と労働条件を保証します

●ILOに準拠した安全な労働環境  
●強制労働と児童労働の禁止(No Child Labour)  
●労働者が団結交渉権を持つ

### 5. 生産地の環境保全を保証します

●薬品の使用、水質保全、森林保全、土壌保全、廃棄物の扱いに関して国際規約を遵守

## NO Child Labour

縫いこまれた幼い汗 放課後の児童労働



2001年秋。アフガニスタンで米中枢同時テロの報復戦争が続いたそのときも、隣国パキスタンとインドでは、硬い革のボールを縫い続ける人がいた。世界中で使われるサッカーやバレーボールの多くは、安い労働力を頼りに両国で縫製される。作り手の中には学齢期の子どももいるが、彼らがそのボールで遊ぶことはめったにない。テロと平和。貧困と豊かさ。02年、日本と韓国でサッカー・ワールドカップ(W杯)が開かれる。華やかな祭典の裏側にある人々の暮らしを報告する。

「サッカーなんか、したことないよ」

汗をだらだら流し、やせた少年(11)はボールを縫っていた。昼すぎに学校から帰ると、庭先に出した簡易ベッドの上で十センチもある二本の針を操り、五角形や六角形の革片を縫い合わせる。報酬はボール一個で八インドルピー(約二十四円)。少年はもう二年もこの仕事を続け、家計を助けていた。

スポーツ用品メーカー「モルテン」によると、世界のサッカーボールの生産量は年間約二千万個。W杯開催年には二倍近くにはね上がるという。その大半がパキスタンとインド製だ。

サッカー発祥の地である英国の植民地だったことが、両国のボール製造を盛んにした。アディダスやナイキといった大手ブランドが両国の現地企業に発注し、そこから仲介人を経て各家庭で縫製されてきた。

児童労働によるボール縫製に批判が出始めたのはW杯米国会が開かれた1994年ごろから。インドでは約一万人(98年)、パキスタンでは約七千人(96年)の児童労働が指摘された。

(2002年1月1日 東京新聞から抜粋)



わかちあいプロジェクト

URL: [www.wakachiai.com](http://www.wakachiai.com)

〒130-0022 東京都墨田区江東橋 5-3-1

phone: 03-3634-7809 fax: 03-3634-7808

取扱店